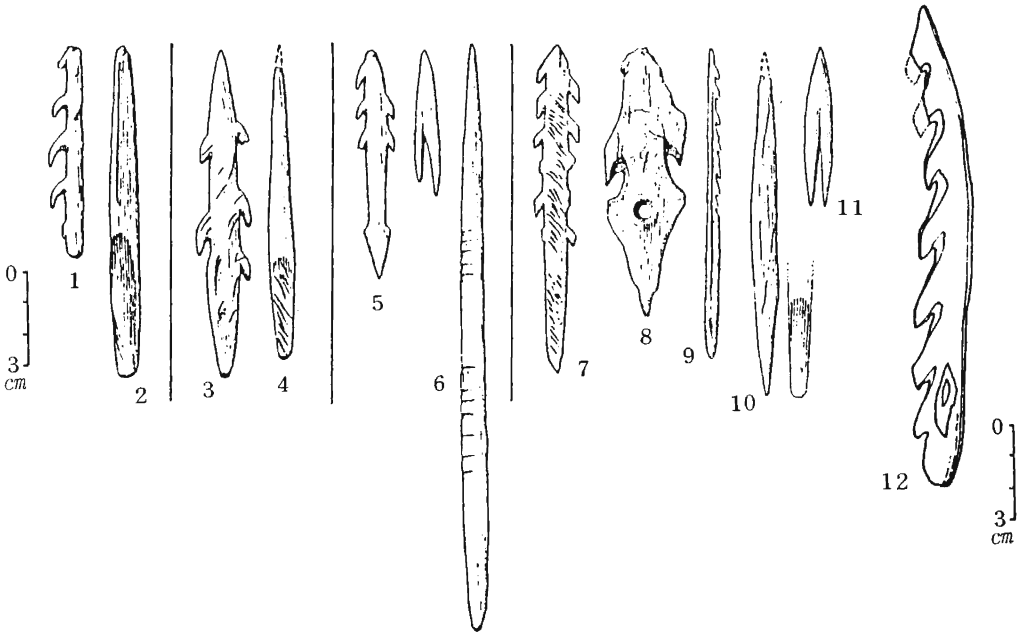
ヨーロッパの石器時代の銛頭と日本の縄文文化の銛頭

金　子　浩　昌

1. ヨーロッパの石器時代の銛頭

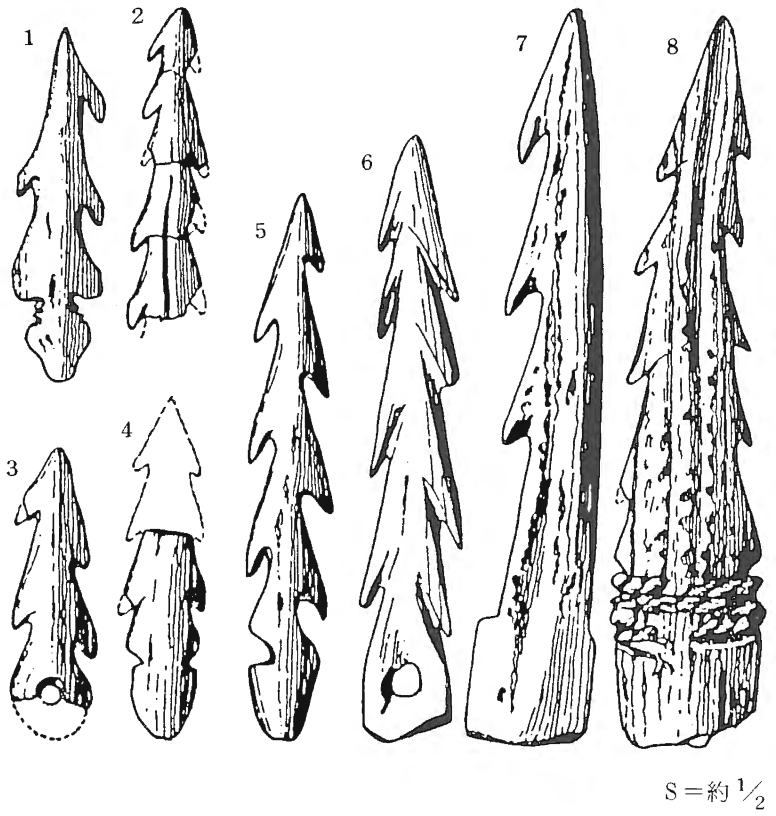
ヨーロッパの後期旧石器時代マドレーヌ文化期に形の整った骨角製銛頭の出土していることはよく知られている。フランス、スペイン、さらにイギリスにおいてもそれらは共通した形のものをのこしている。この骨角製銛頭の形態は詳細にみれば、実に多様な形のものをみるが、大別すれば例えばルロワ・グーランが述べているように、マドレーヌ期中期、後期、終末期と各時期を特徴づける形態がある。重要なのは基部末端にわずかな隆帯部をつくって索縄を結ぶようにした加工がみられる製品がマドレーヌ後期にみえ、さらに終末期になると隆帯が無くなるもの、穿孔を施すものがでてくる。また片側に鋸歯状の鐖をつけているものもみられる。中石器時代になると、この旧石器時代終末期の系統を引きつぎスペイン、フランスではアジール文化にみる鋸歯状の鐖をもち、基部が楕円形にふくらみ、縦長の穿孔をもつものが多くみられ、特にフランス



第1図　フランスマドレーヌ文化の銛とヤス先
1、2　中期　　3～7　後期　　8～12　終末期
A, Leroi-Gourhan
"La Prehistoire" 1968, P.131より

側にはこの穿孔タイプのものと、穿孔されないくびれもしくは肩だけをもつものがみられる。おそらく、このくびれをもつタイプのものが、スイスの中石器時代の有肩・有溝銛頭との関連が強いのではないかと思われる。スイスの銛頭を問題にするにはまだ資料が少なく、また細部も加工の技術を調べる必要もあるが、第2図にみるように中石器から新石器時代に至るに及んで大型化していくようである。

なお、東ヨーロッパのユーゴスラビアの中石器時代遺跡で出土している有孔の銛頭は、後述する日本の縄文文化期の中期に東北南部の太平洋岸地域で現れた単純銛頭によく似ているが、これについてもその出自をめぐる検討が必要であろう。



第2図　アルプス前地と南部ドイツの鹿角製銛頭
1～5　後期中石器時代　6～8　新石器時代
(1)Wachtfelsen, Grellingen, Bern ; (2～4) Birsmatten, Bern ;
(5)Falkensteinhohle, Tiergarten, Hohenzollern ;
(6～7) Lattrigen and Bielersee,
Bern ; (8) Egolzwil 2, Luzern.
G.Clark Mesolithic Prelude, 1980による　註1)

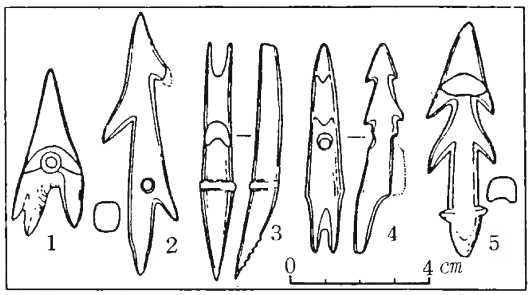
2. 日本の縄文時代の銛頭

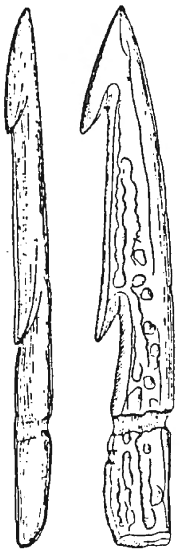
日本の石器時代の銛やヤスの出現をめぐっては、広く日本をとりまく大陸の文化のそれに目を向けなくてはならないが、ここではそれに直接ふれず、日本列島内の問題のみに限ってふれておこう。

一つの系統は北方地域のそれで、そこでは早期末か前期はじめに開窩式の銛頭がみられる（第3図3）。この銛頭は本来逆刺を必要とせず、小さくともよいので、大きさとか逆刺は発達しなかったが、そのため製作もまた容易で多量につくられ、海獣猟の主要な道具として使われた。

本州の東北部の南寄りでは、沿岸に集まる魚群が豊富で釣針がさかんに作られるが、魚を突き刺す道具として、特異な有孔の三角型銛頭が案出される（第3図1）。これも本来逆刺を特に必要としなかった。しかし、この銛頭を起点として逆刺を発達させた有孔の銛頭が作られ（第3図2）、縄文時代の後半期ついに閉窩式銛頭の盛行をみる。

一方関東地方では早朝から貝塚の形成があり、釣針が作られるものの刺突具は単純で銛頭などのつくられることはない。ヤス状の刺突具の場合でも逆刺をつくるタイプの現れるのは前期に至ってからである。このように東京湾内の貝塚で逆刺の付く刺突具が出現するのは、どのようのこ





第3図　縄文時代の代表的な銛頭の形態　　S＝½

1. 有孔三角型の単純銛頭（宮城県南境貝塚）縄文中期
2. 有孔単純銛頭（北海道南境貝塚）縄文後期
3. 開窩式銛頭（栄浦岩陰）縄文中期
4. 閉窩式（燕形）銛頭（岩手県獺沢貝塚）縄文晩期
5. 有肩銛頭（千葉県永井作貝塚）縄文中期
6. 有溝銛頭（千葉市加曽利貝塚）
   所属時期は不明だがおそらく中期の所産と思われる。この形の銛頭が前期後葉期に現われ、中期には奥東京湾地方でもつくられる。

とが要因になっているのか今後の大きな課題であろう。東京湾奥深く海進の現象が開始してから前期の半ばに至る間にようやく海への環境適用の能力が貯えられたのであろう。こうしたときに道具の革新とでもいえることが生ずるのではないだろうか。ヤスのような簡単な漁具に鐵がつき、さらにヤスから銛への転換もこうした技術的な発展であろう。東北南部仙台湾岸域では閉窯銛の出現が前期にあったとする指摘もあり、関東地方では前期に現われた単純銛頭が中期には加曽利貝塚（第3図6）その他にみるような整った形になる。一方西北九州地方でも開窯式の銛頭の出現が知られてきているが、これについては今後の研究が注目される。

註1）Graham clark, Mesolithic prelude, the palaeolithic-Neolithic Trsilion is old world prehistory, 1980, Uni, press Edinburqh